令和4年2月17日 発行

第53回
全国公立小中学校事務研究大会

いろどり彩り埼玉大会

速報 Vol. 6

さ 彩の国 い 今こそ助けあい た 学び合おう ま

全体研究会Ⅱ

シンポジウム

テーマ「子どもの未来を創造する地域協働」

シンポジスト
文部科学省初等中等教育局児童生徒課 課長補佐 八田 聡史 氏
茨城大学大学院教育学研究科 教授 加藤 崇英 氏
さいたま市教育委員会 教育長 細田 眞由美 氏

３名のシンポジストにより、二つの論点について意見が交わされました。それぞれの立場からお話しいただき、研究討議を振り返りながら、これからの学校の在り方と事務職員の果たす役割について共有しました。

論点１ 学校づくりと地域づくりを担う学校の在り方

八田氏： 全国学力・学習状況調査の結果からは、新型コロナウイルス感染症による臨時休業の影響で子どもたちの生活スタイルが変化したこと、地域の方との協働による活動が減少していること、また、埼玉県で独自に行った調査からは、昨年一年間のなかでも教員のICTの活用が増えていることがみてとれる。地域連携やICTの活用など学校をめぐる環境がかわるなか、様々な人材がかかわり、学校をめぐる人が変化してきているといえる。

細田氏： 令和２年度のGIGAスクール構想により、子どもたちが一人一台の情報端末を手にすることになった。令和３年度は情報端末を使いこなせるよう、市内すべての教職員がITリテラシーを身に付け、主体的で深い学びの授業を展開できるようになった。

また、さいたま市では令和４年度に全校でコミュニティ・スクールを設置することになるが、もともと地域のサポート組織があり、それら組織をコミュニティ・スクールと一体化させて、さらに地域全体で子どもたちの成長を支えていく環境に展開していこうと考えている。

加藤氏： コロナ禍でのオンライン学習等、状況が変化するなかでも新学習指導要領に沿ってカリキュラム・マネジメントが進められてきた。オンラインの成果がでると同時に課題が生まれ、この二年間で各学校や教職員ごとに差が生じてきていることに対しての支援ができるような研修をしていくことが課題である。

コミュニティ・スクールの新設にあたり、地域の意見を反映する仕組みと学校経営のPDCAをリンクさせること、基本的な機能を確認していくことが必要。限られた地域資源のなかで、学校と地域が共有すべきものは何か、価値を高めていくべきものは何かを議論して、楽しんでできることが様々な活躍につながっていくだろう。

研究討議報告 池田安孝全事研研究開発部副部長より各分科会で話し合い共有した、事務職員の役割について報告がありました。多くの分科会のなかで共通して論点となっていた内容として、「情報」「コミュニケーション」「事務職員の意識」の３点を挙げ、各分科会の様子が伝えられました。

論点２ 子どもの未来を創造する地域協働と事務職員・共同学校事務室

細田氏： 事務職員の強みは、財務、学校全体を俯瞰して見られる立場、学校を取り巻く様々なステークホルダーをつなぐ窓口、この三つであると考えている。

特に財務の面では、校長先生が事務職員を頼りにしていることを実感する反面、学校間で意識の差があることも事実である。そのため校長先生に対して、学校経営に貢献できると、是非事務職員からも進言していただきたい。多くの分科会研究討議で、明日から一歩を踏み出すという結論に到達したことを歓迎する。

八田氏： 「チーム学校」答申から始まる事務職員にかかわる一連の制度改正の流れで、令和２年度に文部科学省から市町村教育委員会へ標準職務例が示された。事務職員の学校運営への参画が求められているとともに、教育活動への参画という点でも、事務職員には学校内の多様な職種の人々との連携・協働を推進するためのコーディネートする能力が求められている。社会教育士の称号を取得することも検討し、地域との連携協働の取組をけん引する役割も担ってほしい。

加藤氏： 組織全体でゴール・イメージを共有し、タスク・イメージを立て、そのなかで事務職員が専門性を発揮し、ミドルリーダーとなってストーリー・イメージ（道筋）を具体的に考えていくことが、学校として求められる人材だと考える。

共同実施組織のなかでもミドルリーダーとして、ストーリー・イメージを描ける人材を育成する力量形成が課題である。

「子どもの未来を創造する地域協働」 まとめ

加藤氏： 時代の変化に伴い、制度や共同実施は全国で多様化している。各地域でビジョンを描き、「つかさどる」時代の学校事務職員として展望をもって組織のなかで積極的に活躍してほしい。

八田氏： 学校に様々な人材がかかわるようになったが、それぞれが専門性を発揮しただけではチームとしての価値が最大化するわけではない。相互に連携してチームとしての機能を高めることが重要になる。連絡・調整役として事務職員の学校運営への参画に期待したい。

細田氏： VUCAの時代※を生きるために必要な資質能力を子どもたちに育成していくためには、学校のマネジメントにダイバーシティを投入することが非常に重要で、そのためにも事務職員にはマネジメントの真ん中で力を発揮してほしい。

最後にコーディネーターの石田衣絵全事研研究開発部長の「シンポジストの先生方からたくさんの御示唆をいただきました。これらを糧に地域協働という新たな領域にチャレンジする勇気と、『事務をつかさどる』という覚悟を持ってまず一歩を踏み出し、実践を積み上げ、一緒に子どもの未来を創っていきましょう。そして次こそは愛媛大会の会場でお会いしましょう。」との言葉でシンポジウムを締めくくりました。

※「VUCAの時代」…先行き不透明な予測困難な時代。

さいたまめちしき 「うどん王国」 埼玉 ≪埼玉グルメ①≫

埼玉は生産量全国２位、香川県に次ぐ「うどん王国」です。日常の食事や冠婚葬祭の行事など、昔から食べられてきました。伝統的な手打ちの「加須うどん」、渋沢栄一が愛した「煮ぼうとう」、だしの効いた肉汁「武蔵野うどん」、麺幅５cm以上の「川幅うどん」、ソースの町「鳩ヶ谷ソース焼きうどん」など、その数は20種類以上。伝統的なものからB級グルメまでバラエティ豊かなうどん文化はまさに「王国」です。

閉会行事

閉 会 式

オンラインならではの手法で、動画による閉会式（引継式）が行われました。

主催者あいさつ

引継式

閉会宣言

フィナーレ

主催者あいさつ

阿部貴子全事研会長より「これまでの大会と異なり、オンラインでの開催となりましたが、多くの方に参加していただき、大会のねらいに迫っていくことができたのではないでしょうか。

ライブによる研究討議では配信方法等の急な変更にも臨機応変に対応いただき、様々に工夫を凝らした運営がなされていて、各支部の特徴が現れ、日頃の支部での活動の様子を垣間見ることができました。また、参加者の皆様が積極的に参加している様子がとても印象的で、新たな手法にチャレンジしていただいた皆様に改めて感謝申し上げます。」とあいさつがありました。

引　継　式

飯島由美子埼玉大会実行委員長より渡部誠一愛媛大会実行委員長へと全事研旗が渡り、大会の引継ぎが滞りなく行われました。

その後、現地開催に向けて準備が進められている愛媛大会のPRを行い、来年への期待が高まりました。

閉　会　宣　言

本大会実行委員長が「オンライン開催は実行委員会としては初めての試みであり、過去の大会を参考にできないなかで試行錯誤して大会を作り上げてきました。オンラインだからこそ、離れていても同じ時間に同じことについて考え、心をひとつにしてつながることができたのではないでしょうか。皆様の学びが全国に広がり、子どもたちの笑顔あふれる未来につながることを願います。そして、『愛顔咲く、ゆめ・人財湧くワク　い～予感』のキャッチフレーズのもと開催される愛媛大会へとつなげていきましょう。

今大会にかかわっていただいたすべての方に心から感謝申し上げます。新型コロナウイルスの感染が収まった折には、是非埼玉に足をお運びください。」と閉会を宣言し、一か月に渡る埼玉大会が閉会しました。

令和４年度

埼玉から愛媛の地へ

「愛顔咲く　ゆめ（ひと）・人財湧くワク　い～予感」

次回大会となる第54回全国公立小中学校事務研究大会（愛媛大会）のPR動画を公開しました。

「次世代の学校づくりを推進するヒューマンリソース」を大会テーマに、令和５年１月26日からの２日間の日程で開催されます。愛媛県県民文化会館をメイン会場とし、現地開催に向けて準備が進められています。来年は全国の皆様と愛顔（えがお）でお会いできることを心待ちに、多くの方に御参加いただけることを願っています。

アンケート実施中

２月25日(金)まで

大会アンケートを実施しています。皆様の御意見・御感想をお待ちしております。

実行委員会感謝の言葉

初のオンライン開催、すべての皆様に感謝

支部主管の全国大会としては初めてのオンライン開催となった埼玉大会は、多くの皆様の参加により、一か月に渡ったすべての日程を無事に終えることが出来ました。御支援・御協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

埼玉大会は、世界的に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の影響を顕著に受けた大会でした。例年どおり夏に埼玉に集い盛大に行う計画が、オリンピックの延期により開催が冬に。その後も感染症の影響は衰えず、参集での開催を断念。

さらに、オミクロン株の大流行で、せめて研究討議を埼玉からとの計画も、急遽分科会担当支部からの配信となりました。急な変更にもかかわらず、御対応いただいた分科会担当支部の皆様には感謝してもしきれません。

その研究討議は全国各地から御参加いただき、アンケート等での意見集約で提案への厚みも増し、大変有意義なものとなりました。どこからでも参加でき、意思を表明しやすいオンラインの良さが発揮された場面でした。オンラインでも分科会での研究討議を充実させたいと準備を進めてきましたので、大きな支障がなかったことに安心しています。なるべく参集で行う大会と同じコンテンツをと揃えた録画動画も多くの皆様に御覧いただきました。本当にありがとうございました。

前例のない開催方法に戸惑うことばかりでしたが、かえって実行委員同士は協力し合ういい機会となりました。至らない点もあったかと思いますが、御参加の皆様にとって「地域協働」「事務職員の役割」を考える時間となったなら幸いです。改めてすべての皆様に感謝いたします。

来年こそは、「愛のくに愛顔あふれる愛媛県」でお会いできるのを楽しみにしています。

埼玉大会実行委員会　副実行委員長　木村公一

さいたまめちしき　酒どころ埼玉　≪埼玉グルメ②≫

開会行事で大野埼玉県知事の後ろにずらりと並んだ銘酒の数々、お気づきになったでしょうか。埼玉県は清酒の出荷量が常に全国上位の酒どころです。関東平野の肥沃な土地に荒川・利根川の二つの水系により、豊かできれいな伏流水に恵まれ、県内34の蔵元で良質なお酒が造られています。埼玉大会の思い出に、訪れた気分で「お取り寄せ」はいかがでしょう。是非一度、御賞味ください。